2015年度 環境報告書

「この地域に生協があってよかった。生協があるから暮らしていける。」と組合員さんに喜ばれ、必要とされ続けるコープあいづ

＜はじめに＞

昨年 11 月 30 日から 12 月 11 日、フランス・パリにおいて、国連気候変動枠組条約第２１回締約国会議（COP21）、京都議定書第１１回締約国会合（CMP11）等が行われました。

今回合意されたパリ協定では、全体目標として掲げられている「世界の平均気温上昇を 2℃未満に抑える（1.5℃に抑えることが、リスク削減に大きく貢献することにも言及）」に向けて、世界全体で今世紀後半には、人間活動による温室効果ガス排出量を実質的にゼロにしていく方向が打ち出され、地球温暖化対策の歴史的な転換点のひとつとなりました。

日本でも、2030 年の温室効果ガスの排出を 2013 年対比 26%削減、長期的な目標として 2050 年までに 80%削減する目標を設定し、これからその具体的な施策が具体化されてくるものと思います。

全国の生協で取り組んでいる「温室効果ガス総量削減長期計画」では、2020 年度に 2005 年度比で 15%削減の目標を設定して取り組んでいますが、引き続き可能な限り高いレベルでの目標達成を目指しつつ、中長期的な取り組み目標を設定していきます。

また、エネルギーの問題では、電気の自由化がスタートし、消費者が電力会社を選ぶことが出来るようになります。調査では、「再生可能エネルギーを選択したい」と考えている消費者が多くあります。私たちが、再エネで作られた電気を使用する事で地球温暖化防止につながる事となります。しかしながら、PPS 事業者には電源構成の開示義務がなく、低価格を打ち出す PPS 事業者では CO_2 排出量の多い石炭火力を使用しているところも多く、生協としても電気の自由化やエネルギーについて学習していく事が必要だと考えています。

コープあいづとしては、事業活動の中での温暖化防止対策を更に進めていく必要があると考えており、フロン対策を合わせた冷ケースの改修や空調機の更新など、中長期対策を設定し計画的に進めていくつもりです。

地球温暖化やエネルギー問題は暮らしの問題として位置づけ、全国の生協の仲間と一緒になって「温室効果ガス総量削減長期計画」を策定し、組合員と力を合わせて取り組みを進めています。

この環境報告書は、その活動の様子をまとめています。まだまだ不十分なところも多いとは思いますが、皆様方の率直なご意見など賜りますようお願いいたします。

くらしの中からSTOP温暖化。
コープ みんなでエコ!

生活協同組合コープあいづ

環　境　方　針

＊＊＊＊＊　理　念　＊＊＊＊＊

生活協同組合コープあいづは、「一人は万人のために　万人は一人のために　そして次世代のために」の精神を掲げ、「自立した市民の協同の力で、人間らしいくらしを創造し、持続可能な社会を実現する」という 21 世紀の生協の理念に基づいて、環境問題に取り組みます。

豊かでくらしやすい地域を大切にし、子孫に対して、人類共通の財産である美しい地球を残すため、環境保全に配慮した事業活動を行います。

経済と環境が両立した「持続可能な社会づくり」の為に、循環型システムの構築と人類共通の課題である地球温暖化対策をすすめます。

原発に頼らないエネルギー政策や再生可能エネルギーの推進の為、施設や設備の省エネ化や再生可能エネルギーの利用促進を行います。

＊＊＊＊＊コープあいづが目指すこと（ビジョン）＊＊＊＊＊

「この地域に生協があってよかった。生協があるから暮らしていける。」と組合員さんに喜ばれ、必要とされ続けるコープあいづを目指します。

＊＊＊＊＊　方　針　＊＊＊＊＊

生活協同組合コープあいづは、組合員のくらしと地域社会に貢献するために、事業活動における環境負荷の軽減と汚染の予防、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。

環境関連の法令、条例、その他受入れを決めた要求事項などを遵守します。

１．　地球温暖化の原因となるCO_2の排出量削減のために、省エネ機器への改修や変更を行い、温暖化防止自主行動計画を推進していきます。
２．　温暖化防止対策として、電気や燃料など、エネルギーの効率的な使用に取り組みます。
３．　商品の管理水準を高めて廃棄ロス等を減らすとともに、事業活動から発生する廃棄物の削減、リサイクルに取組みます。
４．　組合員さんと一緒に、地域の環境保全活動の推進や生物多様性の保全活動に取り組みます。
５．　事業の効率化や、環境破壊につながる車両事故を減らします。

以上の活動を進めるため、コープあいづの組合員の為に働くすべての人に環境教育を実施します。

この環境方針を広く公開し、環境活動の取組み状況について定期的に、公表します。

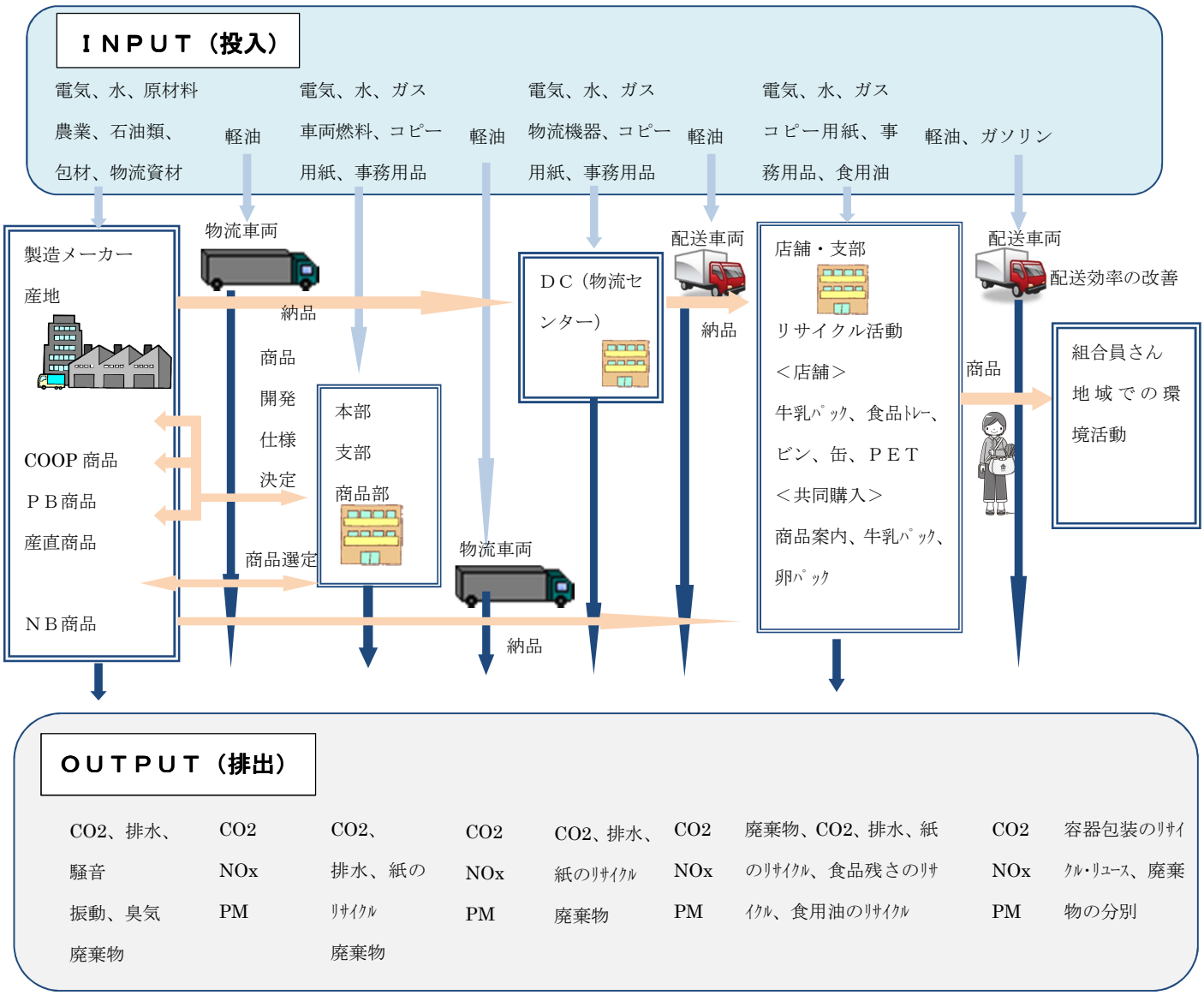
２０１４年５月１９日制定
生活協同組合コープあいづ
専務理事　吉川毅一

コープあいづの事業活動にともなう環境負荷

コープあいづでは、多くの資源を利用して事業活動を行っています。それに伴って多くの不要物を排出しており、環境への影響を与えています。

コープあいづでは、それらの量を計測し、環境マネジメントシステムを活用して環境負荷の低減の為の活動に取り組んでいます。

コープあいづの事業活動における環境影響フローを下に示します。



2015 年度事業活動による環境負荷

主なＩＮＰＵＴ（投入）

■商品　　■工用原材料

■エネルギー、水資源（前年比）

電気・・・・・・・・9,300,960kWh(98.7%)
ガス（LPG）・・・・　86,236m3(95.6%)
水・・・・・・・・・・46,552m3(79.1%)
灯油・・・・・・・・・35,646ℓ(70.1%)
ガソリン・・・・・・・27,629ℓ(94.3%)
軽油・・・・・・・・・99,020ℓ(96.3%)

■資材（前年比）

レジ袋・・・・・・・・4,424kg(103.0%)
容器包装資材（トレイ・ラップ等）
・・116,499kg（95.8%）
内袋・・・・・・・・1,880kg（103.9%）
ドライアイス・・・33,952kg(115.0%)
コピー用紙・・・・8,515kg（91.7%）
チラシ・・・・・・53,902 kg(102.2%)
POP 用紙・・・・・　7,265kg(114.1%)
商品案内・・・・・287,200kg(102.5%)

ＯＵＴＰＵＴ（排出）

■廃棄物（前年比）

一般廃棄物・・・・235,180kg(130.0%)
産業廃棄物・・・　51,125kg(141.1%)

■大気への排出（前年比）

CO_2・・・・・・・・4,868ｔ（97.5%）

OUTPUT

INPUT

コープあいづ

商品・サービス

店舗（８店舗）
共同購入センター
燃料スタンド（２ヶ所）、
配送センター
本部

For EARTH

RECYCLE

ＲＥＣＹＣＬＥ（リサイクル）

■事業活動の中で取り組んでいるもの（前年比）

商品案内・・・・・・・・314,850kg(105.7%)
共同購入シッパー内袋・・・1,880kg(103.9%)
食品残さ・・・・・・・・206,238kg(102.9%)
廃食油・・・・・・・・・14,072kg(79.8%)
新聞・雑誌・・・・・・・7,600kg(103.4%)
ビン・缶・ペット・・・・13,479kg(85.5%)
ダンボール・・・・・・368,494kg(102.1%)

■組合員のリサイクル活動（前年比）

牛乳パック・・・・・10,156kg(75.5%)
発泡トレー・・・・・12,294kg(102.8%)
透明トレー・・・・・4,357kg(104.4%)
新聞・・・・・・・・11,920kg(78.2%)
雑誌・・・・・・・・21,260kg(99.5%)
ダンボール・・・・・9,710kg(233.4%)

環境マネジメントの取り組み

コープあいづでは、環境保全活動を業務のマネジメントに取り入れ確実に進めていくためにISO14001の認証を2002年2月に取得しました。最初の頃は、電気やガス、廃棄物の減量を目標として設定し、大きく改善する事ができました。そして最近では、より業務目標と一緒に進めていく事とし、廃棄ロスや労働時間の効率化などの目標を設定して活動を強化してきました。

この活動も10年以上が経ち、「認証取得」という外部審査を受けなくても、コープあいづ独自に活動が継続できると判断し、2014年2月に「ＩＳＯの認証」を卒業する事となりました。

しかし、この事によってコープあいづの環境保全活動を後退させることになるようではいけない。むしろ、地球温暖化防止の為の活動を更に強化し、更により経営にも役立ち、業務推進を強化していけるようなマネジメントシステムを構築していこうと考えています。

マネジメントシステムを仕事に活かす

「環境マネジメント」として活動をしていますが、この仕組みを業務に活かしていきたいと考えています。

これまでのCO_2、電気、ガス、廃棄物の削減などに加え、廃棄ロスの削減や店舗の投入量（供給/時間）、宅配事業の利用人数などの業務課題を環境マネジメントの中で取り組んでいます。

環境教育を実施しています

全職員へは環境方針や環境目標だけではなく、地球温暖化問題や最近の環境情報などの学習やセルフチェックによる環境にやさしい行動のチェックを行いました。

また、全職員に対して「一日エコライフ」への参加も呼びかけ、家庭でも環境に配慮した行動を行い、地域の環境保全にも役立てるような活動をしています。

事故緊急事態への対応

灯油やガソリンスタンドでは、万が一流出したことを想定した訓練や防油堤が正しく機能するかなどのテストを行って緊急事態発生の対応への準備をしています。

店舗では、消防法に定められた訓練を実施し、火災や震災が起こった時の避難誘導がスムーズにできる様に訓練を行っています。また、消火器の使用についてもいつでも使用できるよう、水消火器などを使って訓練を行っています。

内部環境監査を強めています

これまでのマネジメントシステムのレベルを維持していく為には、内部環境監査の機能を強めることが大事だと考えています。

その為、大阪いずみ市民生協やコープ東北の方にも内部環境監査員としてご参加いただき、内部監査の有効性を高めていきました。

外部の目からもコープあいづの環境への取り組みを見ていただき、私たちの活動を外部の厳しい目で評価していただく事としました。

環境マネジメントを発展させていきます

地球温暖化防止の為の活動を更に強化し、更により経営にも役立ち、業務推進を強化していけるようなマネジメントシステムを構築していこうと考えています。

コープあいづは、これからも環境にやさしい事業活動を推進していきます。

そして、「この地域に生協があってよかった。生協があるから暮らしていける。」と組合員さんに喜ばれ、必要とされ続けるコープあいづを目指して活動をしていきます。

地球温暖化防止対策

ＩＰＣＣ（気候変動に関する政府間パネル）第５次報告書では、地球温暖化の原因は、「人間に活動による影響の可能性が極めて高い」。気候変動を抑制するためには、温室効果ガスの排出量の大幅かつ持続的な削減が必要と指摘しています。

地球温暖化は、気温上昇だけでなく異常気象や、大雨・干ばつなど、様々な気候変化をともなっています。その影響は、自然界や生態系にすでに現れています。我が国でも多くの異常気象が発生し、記録的な猛暑と度重なる集中豪雨が起きています。

将来、地球の気温はさらに上昇すると予想され、水、生態系、食糧、沿岸域、健康などでより深刻な影響が生じると考えられています。

コープあいづでは、地球温暖化の原因となるCO_2の排出量削減に取り組んでいます。

CO_2の総量削減に取り組んでいます

・昨年より１２６CO_2－ｔ削減できました

コープあいづは、全国の生協と一緒に「温暖化防止自主行動計画」を策定し、CO_2の排出量の削減に取り組んでいます。

コープあいづの事業活動から排出されるＣＯ2のもっとも多い排出源は電気です。改正省エネ法に定められた管理標準に従った設備の管理強化、ＬＥＤ照明やスポットライトへの変更、環境マネジメントシステムを運用する事で削減する事ができています。

宅配事業で使用する車両燃料については、事業拡大に伴っ

		CO2(t)						削減量(t)		削減率	
	係数	2005年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	05年度比	前年比	05年度比	前年比
電気[kwh]	0.000423	4,788	4,398	4,387	4,072	3,985	3,934	-854	-50.3	82.2%	98.7%
灯油[L]	0.002489	87	98	102	140	127	89	2	-37.8	102.0%	70.1%
LPG(事業所用)[m3]	0.006094	533	563	571	571	550	526	-8	-24.4	98.5%	95.6%
ガソリン(生協車両)[L]	0.002322	12	66	60	58	68	64	53	-3.9	557.2%	94.3%
軽油(生協車両)[L]	0.00258	168	225	250	274	242	227	60	-14.2	135.5%	94.1%
ガソリン(委託車両)[L]	0.002322	0	0	0	0	0	0	0	0.0	-	-
軽油(委託車両)[L]	0.00258	0	0	0	0	24	28	28	4.3	-	118.0%
A重油[L]	0.00271	1,924	0	0	0	0	0	-1,924	0.0	-	-
CNG事業所用)[m3]	0.002108	0	0	0	0	0	0	0	0.0	-	-
		7,512	5,350	5,370	5,116	4,995	4,868	-2,643	-126.3	64.8%	97.5%

＊電気の係数は、2005 年度電事連平均 0.423 を固定して使用

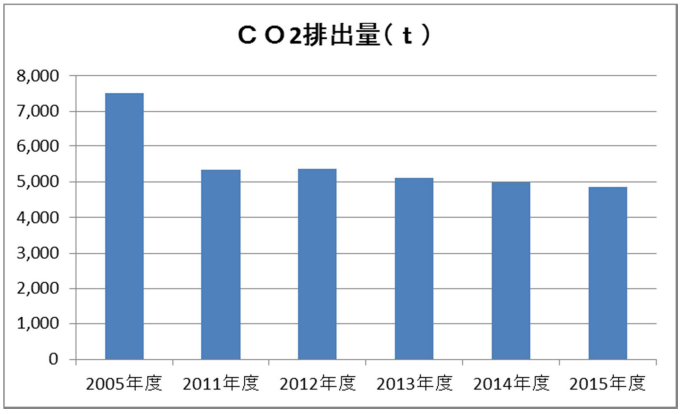
て増加しますが、効率の良い配送コースの組み直しや、配送ミスをなくすなど、できるだけ抑制する努力を行っています。

削減目標は、全国の生協全体（合計）で 2020 年に温室効果ガス排出量を 2005 年度比で 15%削減することとしており、コープあいづでもそれ以上の削減ができるよう努力していきます。

コープあいづの事業活動では、事業所の照明や空調機、店舗の冷ケース使う事での電気の使用。店舗のフライヤーなどでのガスの使用。宅配事業で使用する車両燃料等、多くのエネルギーを使用します。

そのエネルギーを作るために、多くの化石燃料を使用します。そして、それを使う事で多くのＣO_2を排出し、地球温暖化の原因となります。

事業活動を行う上でエネルギーの使用は不可欠なものですが、限りある化石資源を大切に使い、地球温暖化防止の為に効率よく使用し、使用量を少しでも削減できるように努めています。



省エネルギーの取り組み

電気使用量の削減に取り組んでいます

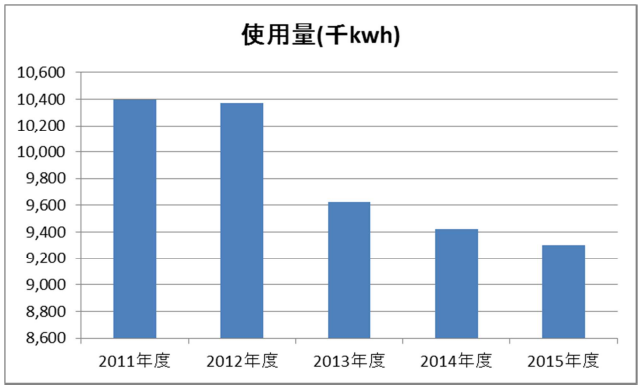
・昨年より 1.3%削減できました

2015 年度までに、全ての事業所の天井基本照明をＬＥＤに変更し、スポットライトのＬＥＤ化も１店舗を除いて終了しました。（残る１店舗はリニューアルが検討されている事から未実施）

店舗では、開店作業中は準備灯状態で作業を行い全点灯は開店 15 分前に、冷凍ケースのナイトカバーを外すのも 15 分前、空調機は閉店 30 分前に切るなどのルールを定め、省エネにつとめています。ピークカットの取り組みでは、引き続きデマンドコントローラーの活用によって削減ができており、電気の基本料金を抑えることができています。

また、年に２回の冷凍ケースのハニカム清掃や設定温度の調整などを行い、少しでも削減できるように努力をしています。まだ不十分なところがありますが、環境マネジメントシステムの中で徹底していきます。

今後も、原発を稼働させなくても電力が賄えるよう、無理のない節電や地球温暖化防止の為にも、電気使用量の削減は重要な課題と位置づけ、取り組んでいきます。

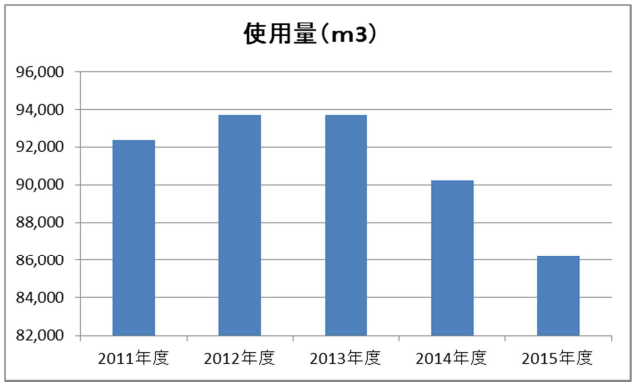


ガス使用量の削減に取り組んでいます

・昨年より 4.4%削減できました

ガスは、空調機のガスヒーポン（３店舗）や厨房（７店舗）で使用しています。また、ひがし店の自走式屋上駐車場のスロープの融雪でも使用しています。

殆どが空調機の使用によるもので、天候に左右される事が大きく、厨房での使用も事業拡大により増加する為なかなか削減が難しいのですが、空調機の運用では、閉店前でのスイッチオフに取り組むなど、少しでも削減できるよう努力をしています。



灯油使用量の削減に取り組んでいます

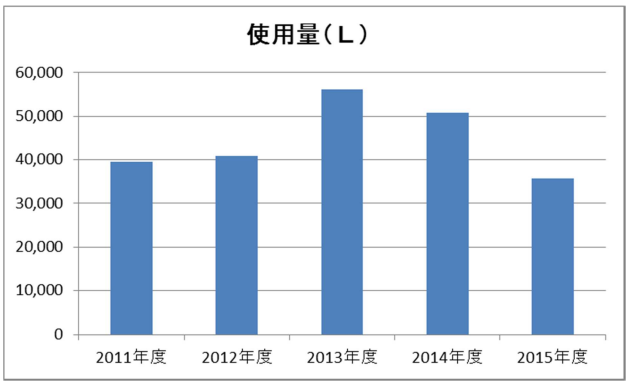
・昨年より 29.9%削減できました

灯油は、ばんげ店・支部・本部の暖房、冬期間のほんまち店の融雪で使用しています。

2015 年度は降雪量が少なく、ほんまち店での使用量が少なくなったことで全体の使用量を削減することが出来ました。

天候に左右させる部分も多いのですが、暖房での使用が多いため、残業を発生させない取組や設定温度を守るなど、少しでも無駄に使用しないように心がけています。

ほんまち店の融雪設備は、通常は手動運転モードで運転させ、翌日の天気や最低気温を調べ自動モードに切り替えを行うようにしており、できるだけ使用を抑制できるように努力しています。



車両燃料使用抑制に取り組んでいます

・昨年より軽油使用量は 3.7%、ガソリン使用量は 5.7%の削減ができました

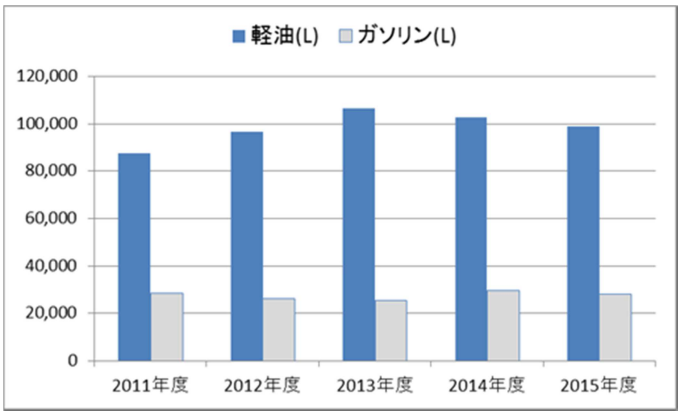
燃料の使用で、一番多いのは宅配事業で使用する軽油です。事業拡大によって増加しますが、削減する事ができました。

削減要因は、配送コースの見直しと、トラブル等の減少によるものです。コープあいづでは、地図システム（配送場所を地図に登録し、自動的に効率の良いコースを作成するソフト）」を活用して、定期的に効率的な配送ルートで配送できる、コースの見直しを行っています。

ガソリンの使用は営業活動が主で、前年比 101.8%の増加となりましたが、省エネ運転に心がけ、使用抑制に心がけています。

車両燃料は、事業活動の増加によって増えていきますが、全職員を対象とした環境教育の中で省エネ運転を学び、安全運転と併せて実践していきます。

2016 年度は、宅配配送車両に安全運転エコドライブ推進システム（Ｅｃｏ－ＳＡＭ）を導入し、安全運転と省エネ運転、効率的な配送コース作りに役立てていきます。

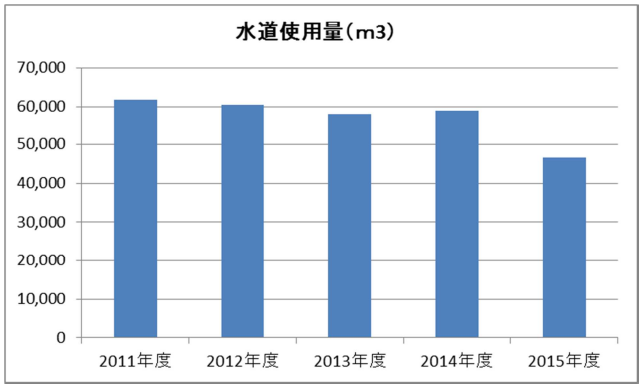


水道使用量の削減に取り組んでいます

・前年より 20.9%削減できました

2015 年度は、降雪量が少なく融雪用の水道使用が少なくなりました。また、2014 年に発生した水漏れが 1 件発生し修理を行った為、使用量が少なくなっています。

ただし、水道の使用の殆どが、店舗での商品加工時とトイレでの使用となっており、コントロールは難しいのですが、少しでも節水できるよう日常的な管理と毎月の使用量を点検し、水漏れなどの早期発見に努めています。



容器包装の使用量削減

紙類の使用量削減に取り組んでいます

・昨年より 1.2%増加しました。

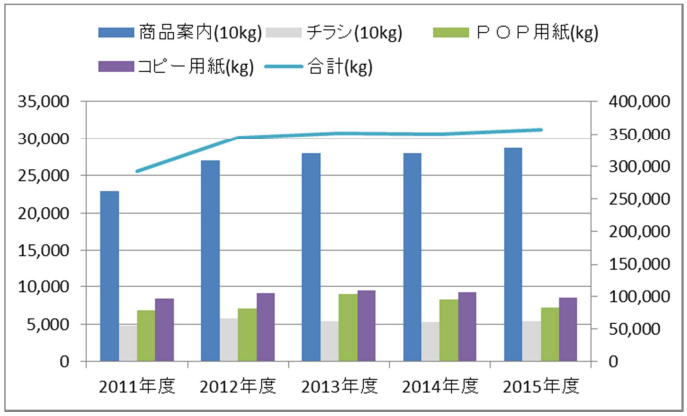
コープあいづでは、事業活動を行うために多くの紙を使用します。2015 年度は、商品案内と新聞折り込み広告がそれぞれ 2.5%ほど増加しています。

一番多いのが、宅配事業で配布している商品案内で、年間で 287 t もの紙を使用しています。しかし、自ら回収しリサイクルしており、100%の回収率で確実にリサイクルしています。

新聞折り込み広告は、年間 54 t ほどの使用量となっています。事業活動には欠かせないものですが、新聞折り込み広告に頼らない方法についても今後のところで検討していきます。

それ以外では、店舗のポップ用紙やコピー用紙ですが、事業で使用する紙は、個人情報が載っているものなどを除いて使用済みのポップ用紙などを一時保管し、古紙リサイクルセンターに持ち込み、すべてリサイクルしています。

また、個人情報などが書かれた用紙以外で、裏面の使用できる紙は、会議資料などで使用しており、森林資源を守る活動に取り組んでいます。



資源の使用量削減の取り組み

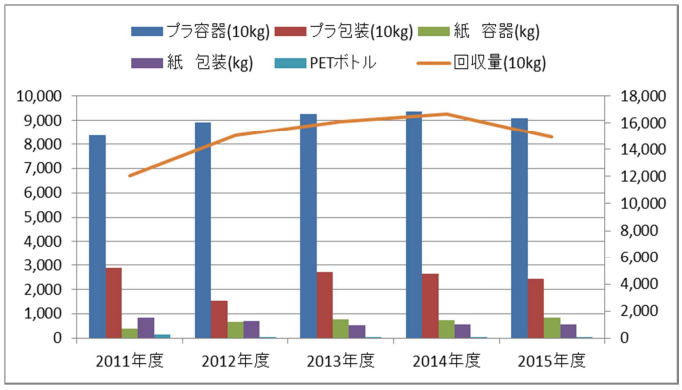
店舗のトレーやラップなど、使用量削減の取り組み

・使用重量は昨年より 3.9%削減できました

容器包装は、食品の保管や提供の為に必要な物で、コープあいづではトレーやラップ、レジ袋などを大量に使用します。

容器包装の使用重量は、供給高が増えれば増加するものであり、減らす事は難しいのですが、大量に排出したものは自ら回収を進めるという考えで店頭回収を強めています。

また、日切れ品などのトレーもバックヤードで乾燥させ、店頭の回収ボックスに入れるようにしています。



レジ袋使用削減の取り組み

・レジ袋辞退率は 88.7%で、517 万枚を節約したことになります。

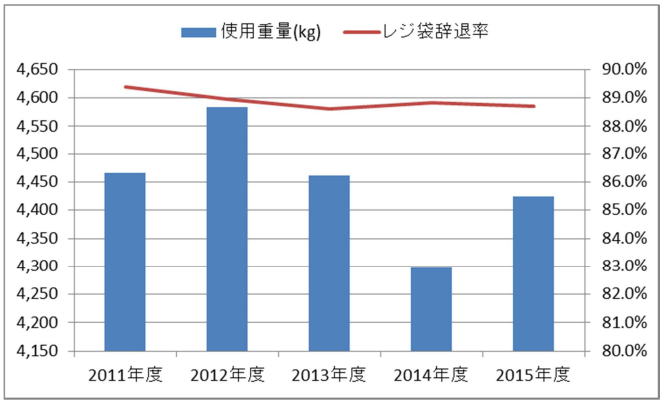
コープあいづでは、ごみ減量、地球温暖化防止、暮らしの見直し活動の取り組みのひとつとして、「レジ袋の無料配布中止」や「マイバッグ運動」「マイバッグ持参運動」を進めています。

また、会津若松市と「レジ袋削減に関する協定」を締結し一緒に削減の活動を進めています。

福島県とは、「マイバッグ推進デー協力店」に登録し、毎月８日・９日には、ビブズの着用と、店内放送によって、マイバッグ持参を呼び掛けています。

レジ袋の辞退率は 88.7%となっており、昨年より 0.1%下がりましたが、高い水準となっています。

この取り組みで、約 517 万枚（約 35 t）のレジ袋が削減でき、ゴミ減量に役立ちました。原油換算では 42.401ℓ（ドラム缶 212 本）、CO_2 排出量では 17t-CO_2 の削減ができた事になります。



リサイクル推進の取り組み

限りある資源を大切に使いたい。コープあいづでは、リサイクル活動を組合員さんと一緒に取り組んでいます。

このことは、資源循環だけでなく、地球温暖化防止にもつながる活動です。

紙パック回収にとりくんでいます

・回収重量は前年より 211kg 増えました

牛乳パックなどの紙パックは、各店舗のリサイクルボックスや共同購入などの宅配事業で回収を行っています。

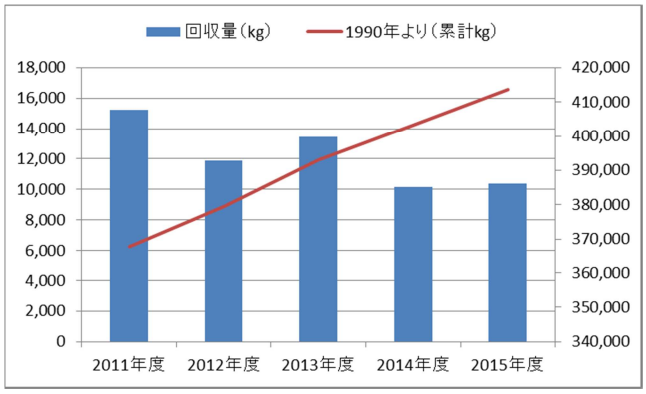
1990 年より組合員さんが主体となって始まった牛乳パック回収ですが、2015 年度は 10,367kg の回収ができました。（1990 年からの回収重量は 413,528kg）

各店舗で回収された紙パックは、古紙問屋に運び込み、トイレットペーパーなどにリサイクルされます。

また。宅配事業やにいでら店で回収された牛乳パッ

クは、共同作業所に引き取っていただいており、その運営資金になっています。

＊2015 年度の回収では、牛乳パック換算で 310,710 枚の回収ができました。これは、コアノンロールにすると 51,785 個分にもなります。



食品トレー回収

・回収量は前年より 1.7ｔ少なくなりました

回収量は、前年より少なくなりましたが、店頭回収を強めています。

店では、肉や魚をトレーに入れて販売しています。そのため、多くのトレーを使用していますが、確実にリサイクルできるよう、容器包装問屋さんやトレーメーカーさんとの協力によって、回収からリサイクルまでのルートを作ってリサイクルを推進しています。

また、リサイクルするだけではなく、再生品を積極的に利用しないとリサイクルが進みませんので、積極的に再生トレーを積極的に使用するように心がけています。再生トレーを積極的に使用する事によって、石油資源の節約や CO_2 排出量の削減につながります。

共同購入シッパーの内袋回収

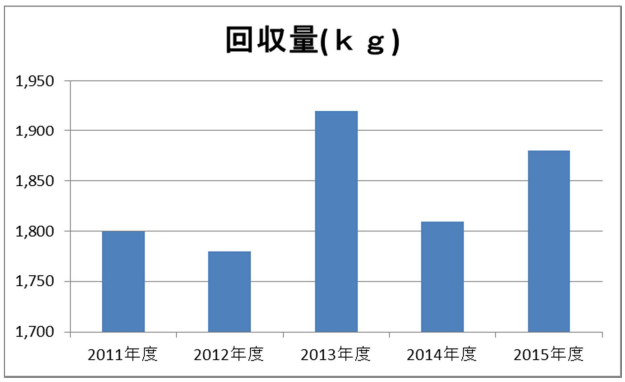
・約 19t の回収ができました

宅配事業で使用する保冷容器には、商品を保護するために薄いシートを使用しています。

容器を回収する際に、内袋も一緒に回収し、会津若松市内のリサイクル工場でＲＰＦ（Refuse Paper&Plastic Fuel）化し、製紙会社や発電所などで使う固形燃料として利用されます。

事業拡大により内袋の使用量は増加しますが、コープあいづでは、資源の有効活用を促進する為、自ら回収しリサイクルをすることで枯渇資源の使用削減、ごみ減量に努めています。

ＲＰＦ



商品案内回収

・約 315ｔの回収ができました

宅配事業は、組合員さんに商品案内を配布し注文して頂く仕組です。

その為、多くのチラシやパンフレットを配布していますが、翌週不要となった商品案内やチラシはシッパーなどと一緒に回収し、リサイクルしています。

2015 年度は商品案内として約 287ｔ、その他のお知らせなどを含め 315ｔの回収となりました。

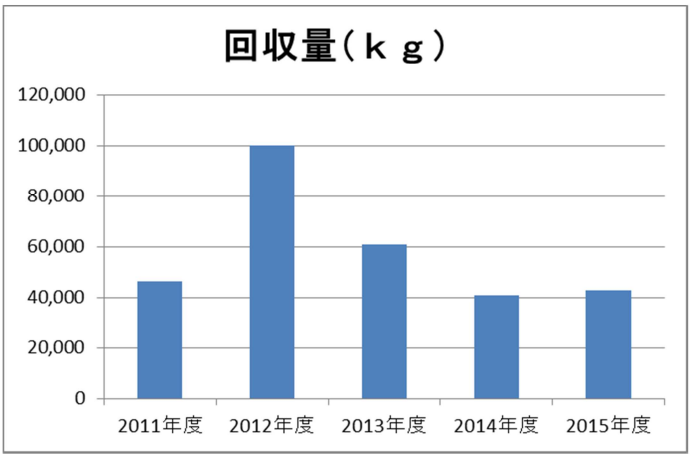
エコステ（古紙の回収ステーション）

・約 43t の回収となりました

2011 年度から、ぷらざ店の駐車場で始まった「エコステ」は、たいへん多くの組合員さんにご利用いただいています。

冬期間は雪の為に休止していますが、2015 年度は約 43ｔの回収となりました。

＊「エコステ」は、組合員さんが、お買物ついでに古紙をお持ちいただき、自動的に重量を量り、ポイントがたまるというシステムで、生協と古紙回収メーカーが共同で運営しています。紙の重量１ｋｇで１ポイント加算され、300 ポイントたまると、ぷらざ店で使用できる 300 円分の商品券が発券されます。



廃棄物削減の取り組み

食品リサイクル法では、食品関連事業者に食品廃棄物等の発生抑制を求めており、リサイクル率も毎年改善していく必要があります。コープあいづでは、リサイクル率が 50%を超えているので、毎年 1%の改善が求められており、ＥＭＳの管理項目として監視測定しており、継続的に活動をしています。

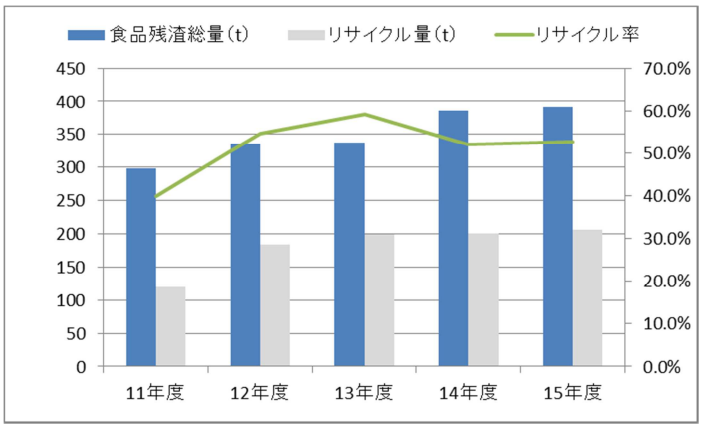
食品リサイクル

・リサイクル率は 52.7%になりました

店舗から排出され食品残さは、会津若松市のリサイクル工場で堆肥化され、店舗で販売している固形堆肥「エコまる」になって、組合員さんの家庭菜園などに利用されています。また、産直農家さんにも利用いただき、リサイクルの輪ができています。

2015年度のリサイクル率の実績は52.7％となっており、前年度より 0.8%向上しました。改善は１％まで達していませんが、過去５年間では 12.8%の改善ができています。

引き続き、現場での分別を徹底し、リサイクル率が向上し、廃棄物の減量ができるよう、努力していきます。



廃食油のリサイクル

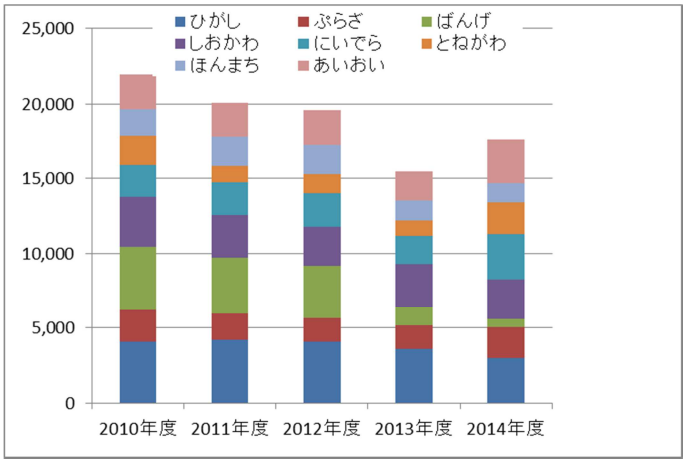
・約 14,310ℓ のリサイクルができました

店舗の総菜部門などでは、毎日大量の食用油を使用しています。コープあいづでは、使い終わった廃食油はすべてリサイクルしています。

にいでら店・ほんまち店・あいおい店・とねがわ店は、会津美里町にある「ピーターパン共同作業所」で、ばんげ店では坂下町にある「桜の家共同作業所」で廃食油を回収いただき、バイオディーゼル燃料（ＢＤＦ）としてリサイクルされ、会津若松市内で走る市内循環バスの燃料等に活用されています。

ひがし店・ぷらざ店・しおかわ店から排出された廃食油は、山形市にある「あやめサービス」で回収され、飼料として活用されています。

2015 年度は、ピーターパン共同作業所で 7,560ℓ、あやめサービスで 5,945ℓ 桜の家共同作業所で 805ℓ のリサイクルができました。



行政や地域の方々と一緒にすすめる環境保全活動

福島議定書の取り組みに参加しました

毎年、福島県が推進している「福島議定書」に参加し、実施期間中（9 月～11 月）に電気、ガス、車両燃料などの削減目標を設定し、取り組みを行っています。

ここ数年は表彰いただけていませんので、活動を強めていきたいと考えています。

行政の会議に委員として参加しています

福島県が主催する､「地球にやさしい“ふくしま”県民会議　会津地方会議」の委員として参加し、事業に対する意見や提言をしています。また、企画委員と研修会や見学会の具体化にも参加して意見を述べています。

会津若松市の、レジ袋削減運動推進会議」にも出席し、ごみを出さない買い物を目指すために一人ひとりにできることは何なのかを市民団体の方、事業者の方といっしょに考えています。

電気自動車普通充電器を設置しています

にいでら店（会津若松市）にて、電気自動車充電器（普通充電器）を設置し、電気自動車を利用される方への充電にご利用いただいています。

ＥＶ自動車充電器設置の目的は、次世代自動車普及促進により地球温暖化ガスの発生抑制に寄与することでの社会貢献と、組合員の利便性向上です。お買い物ついでの、ちょい足し充電として大いに利用いただきたいと思います。

組合員さんと一緒にすすめる

環境保全活動

コープあいづでは、環境保全活動は暮らしの問題として、環境委員さんを中心に活動しています。

環境委員会では、出前講座や学習会の開催、大気測定（NO_2）や水質検査を継続的に行い情報発信する活動、ケナフの栽培を通して環境問題への意識を高める活動、地域や行政の方と一緒に清掃活動などボランティア活動に参加する等、幅広い活動に取り組んでいます。

行政の方とご一緒に

会津若松市の「環境フェスタ」に参加（9/27）

環境委員会では、毎年、秋に開催される「環境フェスタ」に参加しています。

2015 年度は、「一日エコライフチャレンジシート」と「牛乳パックを使った小物入れ、新聞紙を利用した花づくり」を行いました。

「一日エコライフチャレンジシート」では、たいへん多くの方が参加いただき、家庭での省エネに役立てたものと思います。

牛乳パックを利用した小物作りは、簡単に手作りできるとたいへん大勢の方で賑わいました。

毎年大勢の方に参加いただき、生協の環境活動をアピールしています。

エコクッキングに取り組みました（2/25）

・長ネギ丸ごと使い切りクッキング

長ネギを丸ごと使って４種類の美味しいおかずに大変身。

他には、黒豆と梅漬けの炊き込みご飯、スープに根っこの天ぷらなど、凄い発想で美味しく、楽しい料理教室が開催できました。

施設見学に取り組みました（11/2）

・大川ダム（水力発電所）

環境委員会の学習として、会津若松市大戸町にある大川ダムに行ってきました。

大川ダムは、水力発電所としての機能だけではなく、洪水調整や流水、利水の補給を目的とした「暮らしを守るダム」です。大自然の中の雄大なダムの景色の中、良い勉強になりました。

楽しい活動をご一緒に

・手作り教室　牛乳パック工作（7/24）

環境について考えるきっかけづくりとして、牛乳パックで小物入れを作りました。

水質検査に取り組んでいます（7/16）

各地区（会津若松、塩川、喜多方、坂下）の河川９カ所で川辺の環境と水質検査に取り組んでいます。

河川の流れの速さや水質の簡易分析器具（パックテスト）を使ってＣＯＤ濃度を調査しました。

※ＣＯＤ：化学的酸素要求量。この値が大きいほど有機物が多く汚れていることを示します。

清掃活動への参加

清掃活動を通じて、ゴミ問題を考たり、水質浄化に役立つ活動へ参加しています

・「猪苗代湖クリーンアクション２０１５in 舟津浜」に参加しました（6/27）

猪苗代湖では、湖水の中性化に伴い水質の自然浄化機能が低下し、ＣＯＤの上昇や大腸菌群数の環境基準値超過に見られるように水質の悪化が顕在化してきており、一層の水環境保全対策が喫緊の課題となっています。

県が取り組む「猪苗代湖クリーンアクション2015」に参加し、水環境を守ることの大切さを学び、水環境を良くするために市民や行政、企業の皆さまと一緒に清掃活動をしてきました。

・鶴ヶ城クリーンアップ作戦に参加しました（9/12）

「クリーンふくしま一斉清掃」の活動として、会津若松市が行う「鶴ヶ城クリーンアップ作戦」に参加しました。

この取り組みは、“会津若松市のシンボルであり、憩いの場でもある鶴ヶ城をまちのみんなできれいにしませんか？”という趣旨のもと、昭和 50 年代から毎年続けられている活動です。

環境委員会の皆で参加し、ゴミを減らす活動に取り組みました。

ＥＭＳ：環境目標の達成状況

【方針1関連】

部署	目的目標	目　標	実　績	結果
全体	事業活動で排出するＣＯ2 を 4,471ｔ以下にする（前年比-1.2%）	４，４７１ｔ	４，４２９ｔ	○

【方針2関連】

部署	目的目標		目　標	実　績	結果
管理本部	2015 年度末：３６協定違反を前年比で半減する。 ①法定休日違反　５１件→２５件 ②月８０時間超の残業　２６件→１３件 ③年６回超の特別条項適用部門 ９部門→５部門	①	２５件	４８件	×
		②	１３件	１４件	×
		③	５部門	１１部門	×
管理本部	労災の発生を年間１５件以下にする（2014 年度 18 件）		１５件	１１件	○
ＤＣ燃料	配送。品揃えミスを０（ゼロ）にする。		０件	１１件	×
共同購入	年間（期末）の共同購入（班・宅配）利用人数を、466,608 人以上にする。（前年度 459,747 人）		466,605 人	462,163 人	×

【方針３関連】

部署	目的目標		目　標	実　績	結果
店舗	店舗全体の廃棄ロス率を２０１４年度比で０．０７%削減する。	全体	-0.750%	-0.761%	×
		ひがし店	-0.814%	-0.800%	○
		ぷらざ店	-1.384%	-1.324%	○
		ばんげ店	-0.938%	-0.944%	×
		しおかわ店	-0.847%	-0.839%	○
		にいでら店	-0.463%	-0.443%	○
		とねがわ店	-0.827%	-1.146%	×
		ほんまち店	-0.649%	-0.514%	○
		あいおい店	-0.468%	-0.474%	×

【方針４関連】

部署	目的目標	目　標	実　績	結果
商品部	店舗の年間ＧＰを２３．３%以上にする。	２２．３%	２２．７%	×

【方針５関連】

部署	目的目標	目　標	実　績	結果
組活	１日エコライフの参加者を７００名にする。	７００人	７１５人	○

【方針６関連】

部署	目的目標	目　標	実　績	結果
支部	共同購入配送車両の事故を 2014 年度より１件削減する。（１４件以下）	１４件	９件	○

環境関連法の遵守状況

主な法規	対象となる施設及び要求事項	順守状況（2016 年 4 月調査）
消防法	・事業所の防火対象物の定期点検報告。 ・防火管理者の設置。 ・灯油・軽油・ガソリン等の危険物貯蔵及び管理者。	・危険物貯蔵及び取り扱い管理については問題なし。 ・防火管理者、危険物保安監督者の設置を確認。店長異動に伴う変更も終了。 ・施設の防火対策は、消防署の立ち合い検査もうけ、問題がない事を確認。 ・避難訓練の実施が、年１回しか行われてない事業所があるので、確実に実施できるよう指導していく。
浄化槽法	・年１回指定検査機関による法定検査。（第 11 条） ・法定に基づく保守点検及び清掃。	・点検及び清掃の実施。 ・2015 年度の法定点検はすべて終了。法定基準を超えるものはない。 ・一部の事業所で、浄化槽の老朽化によって水質基準の悪化の傾向がみられる。点検清掃頻度を増やし維持していく。また、下水道への接続も検討していく。
下水道法	・排出水質基準の順守。 ・排出事故時緊急措置及び届出。	・水質基準で問題なし。 ・排水事故等は起きていない。
水質汚濁防止法	・河川等への油流失による汚染	・河川等への流出事故は起きていない。
騒音・振動規制法	・指定区域内の特定施設の設置の届出。（冷凍機及び空気圧縮機の出力 7.5kw 以上の設備）	・届け出の維持確認済。 ・騒音振動の苦情発生なし。

主な法規	対象となる施設及び要求事項	順守状況（2016 年 4 月調査）
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・一般廃棄物、産業廃棄物の委託業者との契約。 ・廃棄物の保管、管理。 マニフェストの発行と管理	・委託契約書の点検及び整理の実施。一部、免許書のコピーが揃っていないところがある。 ・2015 年度のマニフェスト発行状況報告書は 6 月までに報告予定。 ・発泡スチロール処理の外部委託化でマニフェストの発行枚数が増えている。
容器包装 リサイクル法	・使用量に応じたリサイクル義務。 ・排出抑制義務（店頭回収の促進、レジ袋の削減）及び報告義務。	・トレーの店頭回収、レジ袋削減の取り組み。 ・委託契約、2016 年 2 月に実施済。 ・定期報告、2016 年 6 月に報告予定。
食品 リサイクル法	・再生利用等の実施及び目標の設定。2012 年度までに 45%、以降 50%まで毎年 2%増加、50%以上は毎年 1%増加。 ・定期報告義務。	・2015 年度分は 2016 年 6 月までに報告予定。 ・2015 年度の再資源化は 52.73%、前年より 0.8%向上している。引き続き、現場での分別を強化していく。
エネルギーの使用の合理化に関する法律	・エネルギー管理統括責任者及びエネルギー管理企画推進者の選任 ・中長期計画の策定。 ・定期報告の実施。	・エネルギー管理統括責任者及びエネルギー管理統括責任者及びエネルギー管理企画推進の選任届の実施。 ・中長期計画及び定期報告の実施。 ・管理標準を作成し、エネルギー管理を実施。
資源有効利用促進法	・分別回収のための表示義務	・ＰＢ商品は、メーカー点検で実施。問題ないことを確認した。
会津若松市、喜多方市におけるレジ袋削減に向けた取り組みに関する協定	・マイバッグ、マイバスケットの持参の呼びかけ。 ・マイバッグ、マイバスケットの販売。レジ袋の辞退数、マイバッグ、マイバスケット持参率など削減状況を市に報告。 ・レジ袋の無料配布の取りやめ。	・会津若松市、喜多方市への定期報告の実施。 ・会津若松市と、「レジ袋削減協定」を締結中。 ・福島県とは、「ストップ・ザ・レジ袋実施店」に登録。 ・有料化の完全実施により、レジ袋辞退率は 88.8%（前年比 100.2%）になっている。 ・毎月８日と９日は、福島県の「マイバッグデー」として、ビブズの着用と店内放送での啓蒙活動を行っている。
福島県におけるレジ袋の削減に関する協定	・マイバッグ等の持参を呼びかけ、レジ袋の削減の取り組みの推進。	

主な法規	対象となる施設及び要求事項	順守状況（2016 年 4 月調査）
フロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律	・フロン引渡しにおいては「委託確認書」の交付と「引取証明書」による引渡し終了の確認。	・フロンの漏えい量の把握、1,869kg。前年比 42%と改善できている。 ・CO_2排出量換算では 409ｔ。 ・４月から施行された「改正フロン法」への対応準備を行い。４月から運用が開始された。
PCB 処理特別措置法	・PCB 廃棄物の届出・保管	・微量ＰＣＢを含む蛍光灯の安定器を 2015 年 7 月に処分を行った。 ・現時点で、コープあいづの保管する PCB はなくなった。

内部環境監査

今年度は、昨年度同様年２回の内部環境監査を実施する事としました。

内部環境監査の有効性を高まるために、コープ東北の大原室長に主任内部環境監査員としてご参加いただき、内部環境監査を行いました。

第一回目は、11 月 26 日～12 月 2 日の期間で、順法を中心に監査を実施しました。

第二回目は、3 月 4 日～3 月 11 日の期間で、全体的な活動状況の確認と、現在すすめているＥＭＳの課題と業務に活かしていく為の環境マネジメントシステムＥＭＳへ発展させていく為の課題などを指摘いただく監査として実施しました。

＜第１回内部環境監査の結果＞

■監査結果

前年度の監査報告書で記載しました「これまでの EMS（環境マネジメントシステム）からの運用しやすいシステムへの見直し」は、事務局内で協議を重ね、改善に向けて事務局が検討中ということで今後に期待したいと思います。

現状の EMS の運用状況は一部徹底不足があります。また、新たな法規制（フロン法）の義務項目に対し一部不足があります。これらは、事務局と担当者が一緒に改善を図られることを期待いたします。

以上から。コープあいづ様の EMS の運用は、概ね継続、維持されているとご報告いたします。

■不適合の所見

不適合Ｂと判断されたものは１件。

・ フロン法で、年４回以上の点検が求められていますが、今年度１度も行われていません。新店長となって、教育がまだされていないようです。

■今後改善が期待される所見

観察＝7 件

観察事項は、直ちに不適合又は改善が必要という所見ではありませんが、今後の運用の際に改善が望まれる又は見直しをされたほうが良いという指摘事項です。

主な内容は以下の通りです。

・ フロン法で要求された点検の実施とその記録の対応に不足がある。
・ 温度点検の記録漏れと設定温度よりも冷やし過ぎのため必要でないエネルギーを無駄に使用しています、（例：設定温度 2℃～－3℃が、記録では－2℃～－5℃の範囲。１℃冷やすにはそのケースの電気料を 5%余計に消費することになります。）
・ 廃棄物重量の測定報告が不十分なのと分別ルールの共有化がされていない。

⇒指摘を受け、更に環境マネジメントシステムが機能し、環境負荷の低減や環境管理の強化、さらには経営に役立つよう、見直しや教育の強化を図っていきます。

＜第２回内部環境監査の結果＞

■監査結果

第１回内部環境監査での結果を踏まえ、主にそれ以降の取組みでどのように改善が進んだか等について監査を実施しました。

（1）前回指摘した『前年度の監査報告書で記載しました「これまでの EMS（環境マネジメントシステム）からの運用しやすいシステムへの見直し」は、事務局内で検討を進めているということで引き続き今後に期待したいと思います。

（2）同様に『現状の EMS の運用状況は一部徹底不足があります。また、新たな法規制（フロン法）の義務項目に対し一部不足があります。これらは、事務局と担当者が一緒に改善を図られることを期待いたします。』についても、対応が進んでいる部分とこれから対応しようという部分という状況なので今後に期待します。

以上から。コープあいづ様の EMS の運用は、前回の内部環境監査同様に概ね継続、維持されているとご報告いたします。

■所見

今回の監査では、不適合と判定される指摘事項はありませんでした。

主な指摘事項は以下の通りです。

①観察：７件

運用管理

・ 冷ケースのナイトカバーが壊れていて、省エネにつながっていない。設定温度が低い。

監視測定

・ 冷ケースの温度測定がされていない時がある。

遵守評価

・ 廃棄物処理の契約書が整理されていな。（許可書の確認ができていない。契約が後先になっている）
・ 改正フロン法に定められている機器の簡易点検で、実施されていないものがある、リストで抜けているものがある。
・ 改正フロン法の対応では、第１回目の監査でも不十分な点がありましたが、改善が不充分です。原因は点検票の分かりづらさにあるように思えます。分かり易く改善されると良いと思います。
・ 冷ケースの設定温度は、省エネだけではなく、商品の品質にも関わる事なので、運用管理レベルの向上が必要だと思います。
・ ナイトカバーに関しては、省エネの観点から早めに改修する事が望まれます。
・ 廃棄物の契約書などの整理に関しては昨年より指摘が続いており、早急に対応する事が必要です。

②推奨：７件

目的目標

・ 廃棄ロス削減の達成手段で、売り切り、段階値引きをする事としているが、実施した事への評価や点検ができる仕組みを作ってはどうか。

- 廃棄物の重量測定や牛乳パックを自分で運ぶなどの作業の軽減化ができないか。
- 故障がちの冷凍庫で、日常の点検を強めて霜を取るなどの対策を行っているが、早めの交換が必要ではないか。
- 改正フロン法の簡易点検記録用紙の書式が分かりづらい。もっと簡単にできないか。
- 配送ミスのカウントはされているが、原因や改善策を記録し、再発防止になっているか検証する事で更に改善が進むのではないか。
- 廃棄物の分別で改善がされているが、その後の点検が必要ではないか。（検証がされていない）
- 廃棄物の重量測定や牛乳パックのリサイクル（自前での持ち込み）など、作業軽減につながる事は、仕組みの簡易化と合わせ検討されると良いと思います。
- 進捗管理に於いて、評価、点検が少し弱い様に思います。一見して分かり易い進捗管理の仕組みづくりが必要と思います。

③プラス：９件

目的目標

- 廃棄ロスの削減で、部門別予算管理を行い、５～10%ほどの改善ができています。また、重点部門を特定して対策が取られています。
- 廃棄ロスの削減で、店長が売場点検を行い、担当者と一緒に原因を考え、改善対策を具体化して取り組まれています。
- 廃棄ロスの削減の対策として、若年層の集客アップをお店の目標として、イベントの開催などを実施されています。
- 不要ヶ所の消灯や空調機のスイッチオフなど、ナイトマネージャの日常ルーチン作業として定め、確実に運用されています。
- 共同購入の利用人数目標達成で未達となっていますが、原因の一つに新規加入者の定着に着眼され、管理者が初回フォローを行う仕組みを１月から始めるなど、具体的な対策がされています。

※目標設定はされているが、達成手段を明確にして活動し、計画通りに活動ができているかを点検するＰＤＣＡが出来ていないと、成果や問題点が分かりづらくなる。特にチェックを強化する必要があると思います。

※できていないこと、できていること、全体で取り組む事など、洗い出しを行い、本当に（優先的に）取り組む事を整理していく事が必要ではないかと考えます。

■今回の監査所見を受けて検討していく事

より、仕事に役立つマネジメントシステムとしていく為に、これからも改善を行っていきます。

① 現在のマニュアルなどの文書を分かりやすい物に改訂し、現場で使えるものにしていきます。

② 無駄な作業を見直し、現場作業の軽減を図ります。

③ 進捗管理の見える化を図り、全員が活動に参加するものとしていきます。

④ 目的目標は、業務改善に役立つ課題で設定していきます。

環境データ

1．使用量

		2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	前年比
エネルギー	電気使用量(kwh)	10,397,738	10,371,081	9,626,862	9,419,858	9,300,960	98.7%
	LPG使用量(m3)	92,356	93,733	93,737	90,240	86235.8	95.6%
	灯油使用量(L)	39,440	40,804	56,212	50,851	35,646	70.1%
	軽油(L)	87,111	96,818	106,368	102,867	99,020	96.3%
	ガソリン(L)	28,328	25,838	24,992	29,297	27,629	94.3%
資源	水道使用量 (m3)	61,839	60,355	58,068	58,854	46,552	79.1%
	紙　合計	292,501	344,283	351,497	350,481	357,034	101.9%
	商品案内	228,820	270,100	279,600	280,160	287,200	102.5%
	チラシ	48,372	57,928	53,399	52,751	54,054	102.5%
	POP用紙	6,868	7,070	8,974	8,288	7,265	87.7%
	コピー用紙	8,441	9,185	9,524	9,282	8,515	91.7%
	プラ容器(10kg)	8372.6	8923.8	9269.6	9377.6	9090.9	96.9%
	プラ包装(10kg)	2892.3	1518.2	2707.7	2654.1	2416	91.0%
	紙　容器(kg)	377	663	764	735	838	114.0%
	紙　包装(kg)	833	691	521	554	565	102.0%
	PETボトル	135	31	30	28	27	96.4%

2．CO_2排出量

		CO2(t)					
	係数	2005年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
電気[kwh]	0.000423	4,788	4,398	4,387	4,072	3,985	3,934
灯油[L]	0.002489	87	98	102	140	127	89
LPG(事業所用)[m3]	0.006094	533	563	571	571	550	526
ガソリン(生協車両)[L]	0.002322	12	66	60	58	68	64
軽油(生協車両)[L]	0.00258	168	225	250	274	242	227
ガソリン(委託車両)[L]	0.002322	0	0	0	0	0	0
軽油(委託車両)[L]	0.00258	0	0	0	0	24	28
A重油[L]	0.00271	1,924	0	0	0	0	0
CNG事業所用)[m3]	0.002108	0	0	0	0	0	0
		7,512	5,350	5,370	5,116	4,995	4,868

	削減量(t)		削減率	
	05年度比	前年比	05年度比	前年比
電気[kwh]	−854	−50.3	82.2%	98.7%
灯油[L]	2	−37.8	102.0%	70.1%
LPG(事業所用)[m3]	−8	−24.4	98.5%	95.6%
ガソリン(生協車両)[L]	53	−3.9	557.2%	94.3%
軽油(生協車両)[L]	60	−14.2	135.5%	94.1%
ガソリン(委託車両)[L]	0	0.0	−	−
軽油(委託車両)[L]	28	4.3	−	118.0%
A重油[L]	−1,924	0.0	−	−
CNG事業所用)[m3]	0	0.0	−	−
	−2,643	−126.3	64.8%	97.5%

３．リサイクル量

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	前年比
牛乳パック(kg)	15,246	11,880	13,446	10,156	10,367	102.1%
発泡トレー(kg)	10,168	11,746	11,956	12,294	9,979	81.2%
透明トレー(kg)	1,875	3,325	4,173	4,357	4,973	114.1%
発泡容器(kg)	28,727	29,133	28,930	20,955	19,704	94.0%
内袋(kg)	1,800	1,780	1,920	1,810	1,880	103.9%
商品案内(10kg)	28,322	30,401	32,340	29,780	31,485	105.7%
食品残さ(kg)	119,184	183,715	199,525	200,436	206,238	102.9%
廃食油(kg)	20,094	19,593	15,489	17,635	14,310	81.1%
エコステ(kg)	46,505	100,208	61,120	40,760	42,890	105.2%

４．レジ袋辞退率

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
使用重量(kg)	4,466	4,584	4,461	4,297	4,424
レジ袋辞退率	89.4%	89.0%	88.6%	88.8%	88.7%

５．食品リサイクル率

	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	前年比
食品残渣総量(t)	299	336	337	386	391	101.4%
リサイクル量(t)	119	184	200	200	206	102.9%
リサイクル率	39.9%	54.6%	59.1%	51.9%	52.7%	102.9%

６．商品案内回収率

	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	前年比
配布量kg	228,820	270,100	279,600	280,160	287,200	102.5%
回収量(kg)	283,220	304,010	323,400	297,800	314,850	105.7%
回収率	112.9%	123.8%	112.6%	115.7%	106.3%	91.9%

７．環境コスト

環境保全効果を表す指標					2015年度実績	2014年度との差
	事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギーの投入	水光熱	電気(kWh)	9,300,960	-118,898
				ガス(m3)	86,236	-4,004
				灯油(ℓ)	35,646	-15,205
				水(m3)	46552	-12,302
			燃料	軽油(L)	99,020	99,020
				ガソリン(L)	27,629	-1,668
		エネルギー消費によるCO2(t)			4,868	342
		廃棄物の排出(kg)			235,180	227,788
		廃棄物のリサイクル量	食品残さ、廃食油(kg)		220,548	2,477
上・下流コストに対応する効果	事業活動から算出する財・サービスに関する効果	レジ袋使用重量			4,424	127
		回収リサイクル量(kg)	牛乳パック		413,528	403,302
			食品トレー		14,952	14,952
			商品案内		287,200	-10,600
			ビン		5,181	-949
			缶		3,492	-1,415
			PET		4,805	88

＊生産・サービス活動に伴って上流または下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト（廃製品・包装などのリサイクル リユースおよびグリーン購入コストなど）

２０１５　コープあいづ　環境報告書

発行日　2016 年 5 月 10 日
対象期間　2015 年 3 月 21 日～2016 年 3 月 21 日
発行　生活協同組合コープあいづ
福島県喜多方市字二丁目 4669-2
お問合せ先　コープあいづ　役員室　新山敦司
TEL 0241-22-1041　FAX 0241-24-3504
Mail a_niiyama@coop-aizu.jp